

校長室だより



令和4年3月9日
校長 齋藤 瑞穂

今こそ知ってほしい 東京大空襲

～1945年3月10日は下町大空襲があった日です～

みなさんには想像がむずかしいかもしれませんが、今から80年ほど前、日本も戦争をしていました。第二次世界大戦と呼ばれる、世界の多くの国を巻き込んだ戦争でした。

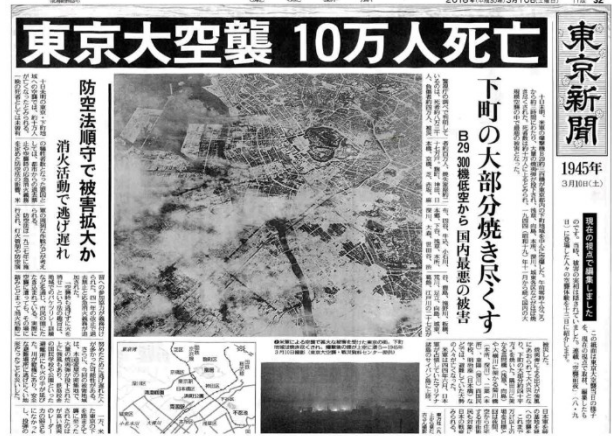
みなさんの暮らす、ここ東京でも、多くの方が犠牲となる空襲がありました。中でも、1945年3月9日深夜から10日にかけて東京下町が受けた空襲では、一日で9万5000人以上（一説では10万人以上）の命が失われました。

東京が本格的な空襲を受けるようになったのは1944年11月24日からです。初めは戦闘機を作っていた飛行機工場など、限られた施設に対してのものでしたが、次第に人々の生活する町も攻撃されるようになりました。

3月10日の空襲は、計画的に民間の人をねらった攻撃として、細かく計算つくされたものでした。たくさんの民間人の命をうばうことで、戦う気持ちをしなせようとしたのだ



といわれています。ターゲットになったのは、江戸の昔から火事が起きれば被害が大きく広がった東京下町。木造の住宅が密集し人口も多かったからです。加えて3月のこの時期は、空気が乾燥して風も強いという気象条件もありました。それらを考えぬいた上で行われた空襲でしたから、被害は大変なものでした。死者ばかりでなく、約27万戸の家が焼けたり壊れたりして、被災者は100万人を超えたそうです。



3月10日の様子を今の視点で新聞に再構成したもの。当時はくわしい戦火の様子は明らかにされず、新聞にのることもありませんでした。
(2018年3月10日東京新聞より)

この日を境に、東京の空襲のねらいははっきりと民間の人へ移りました。1944年11月から終戦の日の8月15日当日まで、東京の空襲の数は全106回、死者は11万5000人以上にのぼりました。

第二次世界大戦での日本全国（海外の戦地で亡くなった人をふくむ）の戦死者は全体で310万人ともいわれています。また、戦争ですから被害は一方的なものではなく、日本も多くの国の人の命をうばい、生活をこわしました。そのことも胸に刻み忘れてはいけません。こうした過去があり、今の私たちの生活があるのです。

今、テレビのニュースなどで流れる戦争の映像に心を痛めている人も多いことでしょう。東京大空襲のあった3月10日にちなみ、戦争について、平和についてぜひ考えてみてください。未来の平和を守るのは、ほかでもない、みなさん自身です。

保護者の皆様へ

先週末はオンライン授業のご参観とともに今年度最後の保護者会に多数お集まりいただき、ありがとうございました。子供たちのこの一年の学校生活を振り返り、担任と保護者の皆様と共に成長を喜び今う時間となりました。どうか。別れと出会いの春はもうすぐそこまで来ています。